



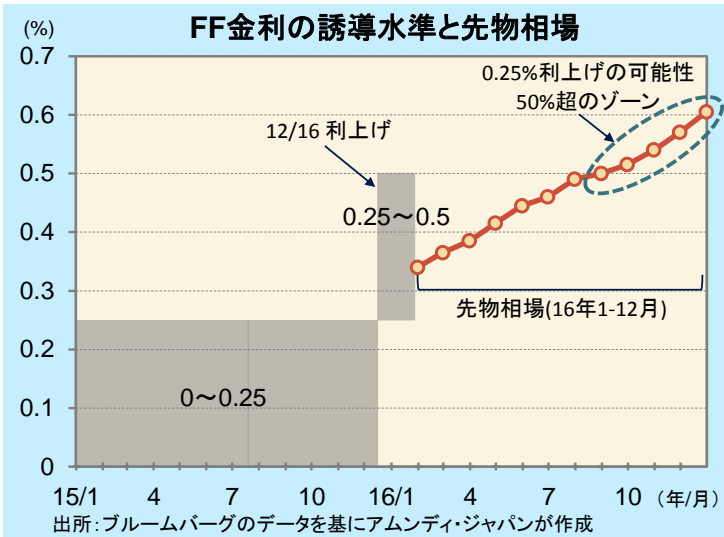
ズームイン米国

米 国

2016年1月29日

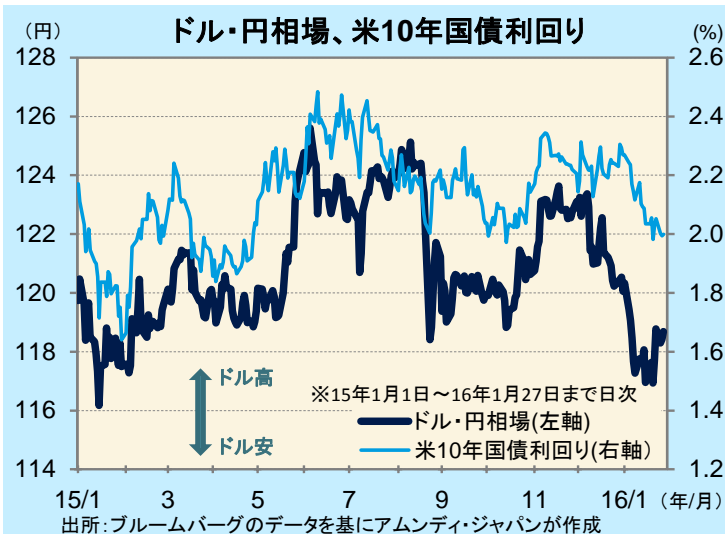
年内の利上げ回数は1~2回の予想が多い

1月26-27日のFOMC(米連邦公開市場委員会)では、政策金利であるFF金利の誘導水準が0.25-0.5%に据え置かれました。国内経済はおおむね順調なのに対し、減速気味になっている海外経済の国内への影響等を見極める姿勢です。年内の利上げについて、FRB(米連邦準備理事会)は0.25%を4回程度を想定しています(昨年12月時点)が、市場の見方はより慎重で、FF金利の先物市場での相場を参考にすると、年内は1~2回という見方が大勢です。



ドルはリスク回避の流れ一服で底堅く、中長期金利は安定

ドル・円相場は世界的な資本市場の混乱で投資家のリスク回避姿勢が強まったことで過剰に円高・ドル安が進んだ面があります。混乱した市場心理はいずれ落ち着くものであり、ドルは次第に反転上昇してくると思われれます。また、中長期金利は世界経済の減速懸念を映して低下しています。ただし、利上げ期待の後退は金利水準の安定を示唆し、金利上昇による債券相場下落(金利上昇[低下]=債券価格下落[上昇])リスクは限られ、底堅く推移すると思われれます。



市場心理はいずれ落ち着くものです。安定した収益チャンスとして国債など米ドル資産への投資は妙味がありそうですね！



投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申し込みの際は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからないこともあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

投資信託の購入時：申込手数料

投資信託の換金時：換金（解約）手数料、信託財産留保額

投資信託の保有時：運用管理費用（信託報酬）、監査費用

運用管理費用（信託報酬）、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。間接的負担には、その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等が含まれる。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の費用がかかることがあります。

<ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申し込みの際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社（以下、弊社）が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想意見等（以下、見通し等）は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。